

僧侶・寺院関係者用

伝承ノート『みち』

～これまでとこれからの私のためのノート～

ガイドブック



浄土真宗本願寺派(西本願寺)

《注意事項》

使用いただく前に必ずお読みください

- ★この伝承ノート「みち～これまでとこれからの私のためのノート～」は、門信徒自らが念仏者としての自覚を深め、門信徒個人・家庭等の仏事伝承のためのノートです。個人情報として大切に保管・管理し、取り扱う必要があります。情報漏洩にならないよう、充分ご配慮ください。
- ★僧侶・寺院関係者のみなさまにおかれましては、くれぐれも過去帳・過去帳に類する帳簿・寺院備付帳簿と同じように、大切にお取り扱いください。
- ★寺院等にお持ち帰りにならず、門信徒個人・家庭等で保管・管理いただくよう、ファイルなどに綴っていただき、ご活用ください。

※宗教者には守秘義務があります。

「宗教、祈祷若しくは祭祀の職にある者又はこれらの職にあった者が、正当な理由がないのに、その業務上取り扱ったことについて知り得た人の秘密を漏らしたときは6か月以下の懲役または10万円以下の罰金に処する」(刑法134条2項)

《活用にあたって》

◎ 仏事伝承のためのノート

自分自身を振り返ることから、今の自らの姿をみつめ、仏事・法事を通して人生をあゆむための依りどころとなる浄土真宗のみ教えに出遇っていただくため、そして、お念仏が次世代の門信徒や有縁の方に伝わって欲しいとの願いで作成された、あくまでもエンディングノートではなく仏事伝承のためのノートです。

◎ 僧侶・寺院関係者ととともに

門信徒だけで書いてもらうのではなく、僧侶・寺院関係者と一緒に記入して作り上げていただくためのノートです。月忌参りや法事などで自宅を訪問した時や、各種研修会の場などで紹介いただき、相談しながら一緒に記入しましょう。

故意に誘導したり、内容によっては個人情報として立ち入るべきでないものもありますのでご配慮ください。記入いただいた後は、お取り扱い・個人情報漏洩に細心のご注意をお願いいたします。

◎ 必要なページをタイムリーに

浄土真宗本願寺派のホームページからダウンロード・印刷して、ご使用いただけます。

最初からすべてを印刷して使用しなくても構いません。

無理をせず、門信徒の方が記入しやすいところから、相談しながら、ご記入ください。

◎ ファイルに綴って

門信徒個人・家庭等で、ファイルに綴って保管していただきます。

想いがかわったら都度書きかえることもできますので、記入されるその方の想いを大切に、記入するようにしましょう。記録写真などを一緒にファイルに綴るなど、工夫をこらして、その方らしい独自のノート作成をめざしてください。

第4章 《《《《 これからの私：依りどころを持って生きる》》》》

第4章 《《《《 これからの私：依りどころを持って生きる》》》》

私は、多くの大切な「つながり」の中を歩んできました。人生で何が大切か考えたとき、健康や家族、あるいはお金と考える方が多いようです。

それらが満たされた時には充実や幸福を感じ、失った時には絶望に陥ってしまふ。一方、大切に思っていたものが古びていなくなったり、逆にかなたな場所が、私にとってかけがえのないことであつたことに気づかれたのではないのでしょうか。

いったい私は、何をも大切にすべきで人生を歩んできたのでしょうか。今が死ぬのはまだ早、周囲の人、近いや遠くに住んでいる人たちに、ゆるぎない人生を歩むための依りどころとなる教えを示してくださいませ。必ずやってくる思いや病、死そして別れ、再死だまといふ仏さまの教えは、たとえ夢や幻でも受け止めます。また、また受け止めます。私を笑ってくださいます。これからの人生を心豊かに生きていくために、そして私が本当に大切に思ふものに出逢うために、浄土真宗の教えを聞く機会を多くもっていただきたいと思います。仏教・法要などについてのことや、お仏壇・お墓が大切に祀られてきた理由は、きっとそこにあるでしょう。

自分思いのままの死に伝えるために、大切に思ふものについて、伝えたいことを整理して書いてみましょう。書くことによって、自分の気持ちに気づき、まわりの方にも伝えやすくなります。

仏教・法要の知識がなければ難しくても構いません。あなたの思いを大切に受け止め、一緒に考えてください。

8

P8 大切な出逢い、大切にしてきたこと

これからの人生を、依りどころを持って生きていくために、改めて今までの人生で大切にしてきたことを整理していただきたいと思います。

《《《《 これからの私：依りどころを持って生きる》》》》

—仏教・法要に相談しながら、思いを書いてみてください—

◆**仏教・法要・お仏壇・お墓などをどうしてもらいたいですか**

◆**自分自身の葬儀はどのようにおつとめてもらいたいですか**

記入日： 年 月 日

9

P9 伝えたいこと

今までの私を振り返っていただくページです。次世代やまわりの方に何を伝えていきたいのかを考えていただきたいと思います。ただ、門信徒の方が僧侶・寺院関係者との関わりがないなかで記入すると、世間の風潮やまわりの空気に流されてしまいがちです。仏事・葬儀への思いは僧侶・寺院関係者が一緒に相談しながら記入するようにしましょう。

《《《《 これからの私：依りどころを持って生きる》》》》

◆**大切な人に伝えておきたいこと、引き継いでほしいこと**

記入日： 年 月 日

10

P10 大切な人に伝えておきたいこと、引き継いでほしいこと

次世代やまわりの方に、何を伝え、何を引き継いでもらいたいか記入していただきましょう。

《《《《 これからの私：依りどころを持って生きる》》》》

◆**寺院は何をすること**

◆**私のお寺(所属寺)の法要・行事・教化活動など**

記入日： 年 月 日

11

P11 寺院は何をすること

寺院ごとに法要・行事の取り組み内容は違います。それぞれの寺院で取り組まれている法要・行事等、一緒に寺院の具体的な活動について、ぜひお話ししてみてください。

《作成の経緯》

宗門では、2015（平成27）年より「宗門総合振興計画（以下「振興計画」）が策定推進され、さまざまな取り組みが進められています。

「振興計画」には、三つの「基本方針」が掲げられ、その中の基本方針Ⅱに「自他共に心豊かに生きる生活の実践」が示されています。そして、重点項目4に「念仏者の生活実践」が掲げられ、推進事項(5)「門信徒は、弥陀の本願を仰ぎ智慧と慈悲のおはたらきのなかで御恩報謝の日暮しと次世代へのお念仏を相続する。」と示されています。

その推進事項を実施するための具体策として、「日常生活における仏事についての手引書を作成、配布し、朝・夕事勤行の徹底を図るとともに、月忌参りや報恩講の励行と帰敬式受式を奨励する。」という事業内容が策定されました。

それらの事業内容の具体的な方途を見出すため、2018（平成30）年2月「念仏者の生活実践委員会」が設置され、委員会での議論が2021（令和3）年2月「答申書」としてまとめられました。

その答申書には「委員会は、『紙媒体としての仏事についての手引書を作成し配布する』ことは、宗門の現状をふまえると困難であるとの結論に達しました。」とあり、その理由として「仏事は、地域によって独自の在り方ではぐくまれてきた経緯がある。」「全国統一のマニュアル的な手引書内容では、各地域や現場で独自の伝統にはぐくまれてきた特徴を否定してしまう可能性を孕んでいる。」とあります。

一方、仏事奨励のための具体的な施策の一つとして「浄土真宗の門徒一人ひとりが、受け継がれてきた仏事の意義を改めて理解していただくとともに、相続いただくために『伝承ノート』（仮称）の作成」が提言されています。

これら「答申書」の内容を受け、門信徒教化部で2021（令和3）年4月「仏事奨励にかかる広報部会」を立ち上げ内容が検討されてきました。

このたび、「仏事奨励にかかるとる広報部会」にて伝承ノートを検討し、『みち ～これまでとこれからの私のためのノート～』と名づけられ、完成にいたりました。

僧侶・寺院関係者と門信徒の信頼関係をさらに深めていただくために、さまざまな場面や状況で、このノートを活用いただき、念仏者としての自覚を深め日常生活における仏事について、朝・夕事勤行の徹底を図るとともに、月忌参りや報恩講の励行と帰敬式受式を奨励いただきたいと思います。